

5回のワークショップの振り返りとこれからの動き

賑わいのある通りにむけて



大社うらら館にて

成果報告会開催

まちづくり方向定まる

三月二十九日の夜に大社文化プレイスうらら館にて、これまで5回のワークショップ、交通社会実験、出雲市における町並み形成の検討をふまえた成果報告会が開催されました。ワークショップの全体指揮をしていただいた桑子先生をはじめ、交通の橋本先生、景観の脇山先生にも来ていただき、それぞれの分野から今後の道づくり、まちづくりの方向性について分かりやすくご報告いただきました。

交通

シェアド・スペースとして、観光バスは北進一方通行、勢溜りの交差点を改良



勢溜まりの整備イメージ（右折レーン、信号設置）



通りの整備イメージ（車道部分の幅員は5.0m/対面通行）



橋本准教授（岡山大学）



鳥根県都市計画課
藤原主任

- 道路幅員十二mの中、自動車を双方方向に通行させ且つ歩行者の空間を広げるといふ難しい課題でした。七mの車道幅員を五mに減らし、センターラインもなくし、自動車は双方方向に走れることとしました。
- 車道幅員が狭くなることによって、自動車の走行速度も低くなります。社会実験で体験してもらいましたが、平均で時速六キロ低下しました。道路の表面加工を変えていくことでさらに低下していくことが期待できます。また、自動車の走行速度低下にあわせて、歩道の幅員も広くなるため、観光客が楽しみながら安全に歩けるようになります。
- 以下、三つの課題が現在ありますが、いずれも解決の道筋は見えてきています。
- 一つは、大型車同士のすれ違いの際に車道からはみ出すという点ですが、観光バスについては出雲大社へ向かう方向への一方通行にします。
- 二つは、交差点拡大に伴う勢溜り交差点の交通安全上の問題。これは信号設置により安全を確保することができると思っています。
- そして三つは、路上駐車の問題。せつかく広げた歩道に車が駐車されては意味がありません。車の影から歩行者が出てきた時、交通事故の発生の可能性もあります。社会実験でも縁台を設置すると路上駐車が減ったなどの成果があるので、それらを踏まえて更に地元の方々とは協議しながら決めていくこととなります。
- 海外で実際に取り入れられている「シェアド・スペース」を基本にしながらの日本型の交通安全対策、賑わいのあるまちづくりにどういった活用できるのかを検討してきましたが、良い成果が期待できると思います。

神門通りの道づくり

其の七

平成 23 年
4 月 13 日

鳥根県
出雲県土整備事務所
都市整備グループ
電話：30-5666

景観

町なみ修景

沿道建築物の町なみ形成 デザインガイドラインと補助制度の創設



出雲市役所まちづくり推進課
原主任

●三十年後五十年後の町並みに照準をあてて考えています。今すぐ建て替えるわけではありませんし、建て替えを強制するわけでもありません。個々の住居や店舗で建て替えの機会がある時に、周辺の町並みに配慮しながら建て替えを行って欲しいと考えています。「周辺の町並みに配慮する」ということはどういうことなのかをガイドラインで示します。

●ガイドラインは住民のみさんの意見を尊重し、出雲市が委員会を設置して検討しました。目的は個々の建物相互の調和を図ることです。

●放置するとバラバラな町並みとなるため、ガイドラインを決めて全体の調和がとれるように、個々の建物の通りのデザインを誘導していきます。

●基本的な考え方としては、和風・低層を基盤としながら、暖かい演出するような建物とします。この考えを実現するために、個別のデザイン要素としては、高さ、屋根、壁面線、材料、色彩、設備、駐車場、看板などを規定します。

●デザイン審査の仕組みは、町並みデザイン委員会（仮）が、個々の建物の外観が町並みにふさわしいかどうかを判断することにします。硬直的なルールではなく、自由な発想を許容できるようにしたいと考えています。



町なみ形成のイメージ



協定のエリア

■デザインガイドライン

高さ	おおむね2階建以下とする。
屋根	切妻等の和風傾斜屋根とし、黒、灰色系の日本瓦とする。
軒・庇	街並みの連続性に配慮し、1階部分には軒・庇を設ける。軒・庇の素材は、上記日本瓦又はこれに調和する素材・デザインのものとする。
外壁	漆喰塗り、板張り、吹付けなど和風の仕上げとし、色彩は白、灰色又は茶色とする。
開口部	窓は引き違い窓とし、出入り口は和風の引き戸を基本とする。色彩は黒又は茶色とする。また、窓等には必要に応じ、木製格子等を設ける。
壁面線	大幅な後退を行わない。
建築設備	木製格子等、和風の囲障を設けるなどして、街並みに調和するものとする。
建築設備等	屋外広告物（自動販売機を含む）の掲出数、大きさ、色彩、取り付け位置は街並みに調和するものとする。
その他	門、塙、柵（住宅） 自然素材を用いた和風のものとす。

■修景補助の内容と補助金額等

住宅等修景費	住宅等の新築、建築、改築、大規模な修繕又は大規模な模様替えに係る工事費のうち、外観に係る経費。
建築設備等修景費	住宅等の屋外に露出して景観を害している給排水設備、空調設備、電気設備、広告物等の除去、隠ぺい又は改善に係る工事費。
外観修景費	門、塙、柵等の整備に要する工事費。
色彩修景費	周辺地域と著しく不調和な色彩の住宅等の外観における色彩修景に係る工事費。

◎助成期間は平成23年度から平成32年度までです。

◎補助対象経費の2/3(200万円を限度)を助成します。

◎修景事業は年度内に完了するものとします。

◎補助金の交付は1敷地について1回限りです。

沿道建築物修景基準策定委員会

■委員の構成（9名）

- *沿道7町内会長
大鳥居・神門前・神門中・神門南・神門西・正門西・駅通り三区
- *関係2団体
神門通り開発促進協議会・神門通り睦りの会
- *アドバイザー
近畿大学准教授 脇田祥尚

■委員会の開催経過

- 第1回目 平成22年12月6日
修景事業概要
- 第2回目 平成23年1月21日
建築物等修景基準・対象範囲
- 第3回目 平成23年2月22日
まちづくり協定
- 第4回目 平成23年3月17日
運営委員会

■先遣地視察の実施

- 鳥取市鹿野町
平成23年2月7日・13日
25名参加

■地元説明会

- 平成23年3月11日
25名参加

景観

道のデザイン1

あまり主張しないデザインにすること 舗装は石畳の方向で



脇田准教授（近畿大学）

●「道の景観を考える際には、どうしても生懸命にデザインを考えがちですが、道路というのは本来「脇役」にあたるものです。デザインしようとする可なり主張しないデザインが悪くなるので、あまり主張しないデザインにすることが大切です。町並みにとって重要なのは、沿道の建物一つ一つの調和がとれているかどうかということです。道路はあくまで背景として存在するもので、その背景デザインを考えるということが道路をデザインするということだと思います。

●ワークショップの中で「歴史的な「神聖な」「落ち着きのある」そして「賑い」という二つを踏まえて道路の景観を考えるというコンセプトが共有されました。

●舗装は、アスファルトなどという意見もでしたが、最終的には出雲大社の参道という性格を考え、「石畳」の方向性となりました。具体的には石の大きさ、色、敷き方などをどうするか、また石だけではなく、車止めや標識、信号機の色や位置はどうするかなど、設計しながらはいいないものはたくさんありますが、来年度に入ってから具体的に詰める予定としています。

●四回日のワークショップでは周辺の町並みについて議論しました。和風で高さのあまりない家並みが続くことが良いという意見を頂き、出雲市の委員会でもそれを踏まえ、二階建てまでで、壁の位置を道路からあまり後ろにしない、軒や庇の位置も揃えるという案になりました。

●県のワークショップが終了したのちに、市の委員会へつなぐということは大変難しいことでしたが、県のワークショップに参加された方の意見が市の具体的な施策に反映されたという意味では、この一年間を通じてとても有意義な成果が出たのではないかと思います。

景観

道のデザイン2

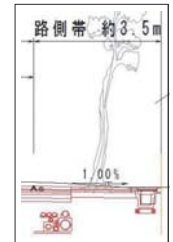
電線の無電柱化へ 舗装の詳細デザイン・照明はデザインワークショップで



現在一電柱電線あり



計画（シミュレーション）- 電柱電線なし



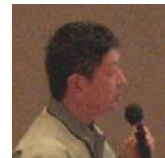
電線を地下に埋設する

●「出雲大社の参道にふさわしい景観を形成するため、道路景観を向上させるという観点から無電柱化を進めます。」

●また、無電柱化の目的には、防災機能の向上という側面も持っており、地震、台風、積雪等により電柱電線の倒壊、断線による停電をなくすことにもつながると考えています。

●神門通りの無電柱化の区間は、勢溜り、ご縁広場前交差点までとし、総延長は七百三十メートルになります。

●舗装の詳細デザインや、照明については、出雲大社の参道にふさわしい風格のあるものとなるよう5月以降に「デザインワークショップ」を開催し、皆さまのご意見、デザイナーの意見を参考に決定します。



鳥取県出雲県土整備事務所
高木主幹

にぎわいづくり

さまざまなサインの整備を進める 新規出店の支援とポケットパーク整備の検討

設置場所	看板の種類	整備内容	主体
出雲大社 駐車場	島根県観光案内板	・島根県内の全ての観光地を掲載した総合案内看板	島根県
	総合案内板	・既存の看板を移設(または新設) ・バリアフリー対応、盤面の更新、利用しやすい場所に設置	出雲市
	拠点案内板	・バリアフリー対応、盤面の更新、利用しやすい場所に設置、QRコードなど他のメディアとの連携	出雲市
	説明板	・バリアフリー対応、盤面の更新、利用しやすい場所に設置、レリーフとセットにする	出雲市
	レリーフ	・表面の保護対策	出雲市
古代出雲歴史博物館	総合案内板	・総合案内板を新設 ・ポケットパーク的な整備	島根県
	拠点案内板	・拠点案内板を新設	島根県
勢溜り付近 神門通り 歩道空間	総合案内板	・総合案内板を新設	島根県
	拠点案内板	・拠点案内板を新設	出雲市
みせん広場	総合案内板	・盤面の更新	出雲市
	拠点案内板	・盤面の更新	出雲市
交通広場	総合案内板	・総合案内板を新設	出雲市
	拠点案内板	・拠点案内板を新設	島根県
大社ご縁広場	拠点案内板	・拠点案内板を新設	島根県
稲佐の浜	拠点案内板	・駐車場北側トイレ付近に新設	出雲市
	説明板	・駐車場に新設	出雲市
	出雲市自転車道看板	・盤面を更新 ・設置場所移設の検討	島根県

■まちなかのサイン整備計画



■出雲ICからの誘導標識の新設



出雲市観光交流推進課
神田係長

●出雲大社まで、迷わずに安心して来ることができるよう交通標識の充実や、駐車場案内看板、大社周辺のまち歩きを楽しめるような、各種のサイン、総合案内看板を整備していきます。

●神門通りでは、平成十九年以来店舗が十四増えており、賑わいがもどってきています。今後も地元と連携し、出店助成を活用しながら、新規出店を支援します。

●神門通りの沿道ではポケットパークの実現に向け検討します。

●沿道の賑わいづくりについて今後も地元と話し合っていきます。



■駐車場箇所・台数の看板

今後のスケジュール

		H23年度	H24年度	H25年度	H26~29年度	H30年度~	
道路整備	道路デザイン検討	■					
	国道431号(勢溜交差点)	■	■				
	神門通り	勢溜り〜一畑駅	■	■			
		一畑駅〜大鳥居			■		
		大鳥居〜ご縁広場交差点				■	
	北荒木赤塚線(〜海岸通り)	■	■				
景観整備	町なみ修景助成	■	■	■	■	■	
交通対策 まち歩き 促進	観光バス一方通行	■	■	■	■	■	
	観光誘導サイン	■	■				
	旅行商品開発、PR	■	■	■	■	■	
	レンタサイクル	■	■	■	■	■	
	観光ガイド養成	■	■	■	■	■	
にぎわいづくり	空き店舗対策	■	■	■	■	■	
	古事記1300年イベント		■				

まとめ

充実した1年間でした



桑子教授 (東京工業大学)

●本年度は、神門通りの検討のために5回のワークショップに加えて、出雲市の沿道建築物修景基準策定委員会が開催され、様々な市民の意見を盛り込んだ計画案をまとめることができました。

●道づくりの検討は、これからも続きますが、素晴らしい通りになって出雲大社の遷宮を迎えることができるといえます。